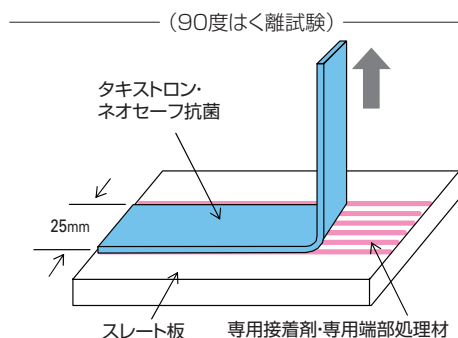


副資材の性能

接着強度 (接着剤・端部処理材)

- 試験方法** JIS A 5536「床仕上げ材用接着剤」6.3.3(はく離接着強さ)準拠
タキストロン・ネオセーフ抗菌を、専用接着剤および専用端部処理材にて、スレート板に接着します。
- ① 接着後23°Cで2日間養生。
 - ② ①の試験体を23°Cの水槽に7日間浸漬。
 - ③ ①の試験体を23°Cのセメント飽和液(PH12.5)に1ヶ月浸漬。
- ①～③をそれぞれ引張試験機にて90度はく離試験を行います。



- 試験結果** ※数値は試験値であり、保証値ではありません。
※試験結果は予告なく変更される場合があります。

【タキストロン・ネオクリーン】 (N/25mm)

	常態2日	水中7日	セメント飽和液1ヶ月
タキボンド#601	89.0	61.2	56.5
タキボンド#607	69.1	22.8	—
タキボンド#701	41.8	27.3	—
エポシール	84.1	24.5	23.8
タキシール#600	54.4	15.3	—

【ネオセーフ抗菌】 (N/25mm)

	常態2日	水槽7日	セメント飽和液1ヶ月
タキボンド#601	53.1	36.3	51.3
タキボンド#607	62.6	24.4	26.6
タキボンド#701	35.7	18.2	21.1
エポシール	118.4	23.6	17.5

各条件下の試験の結果、専用接着剤および専用端部処理材は、すぐれた接着強度を示します。

※JIS A5536における規格値は、常態接着強度20.0N/25mm以上、水中浸漬接着強度10.0N/25mm以上と定められております。

※下地材質・下地の乾燥度・接着剤のオープンタイムなどの施工条件によって変化しますので事前に接着テストを実施されることをおすすめいたします。

溶接強度 (床溶接棒)

- 試験方法** 自社法
タキストロン・ネオセーフ抗菌にU字溝を設け、専用溶接棒を熱風溶接後、ダンベル1号で打ち抜き、引張試験機で破断強度を測定します。

- 試験結果** ※数値は試験値であり、保証値ではありません。
※試験結果は予告なく変更される場合があります。

溶接強度及び破断伸び

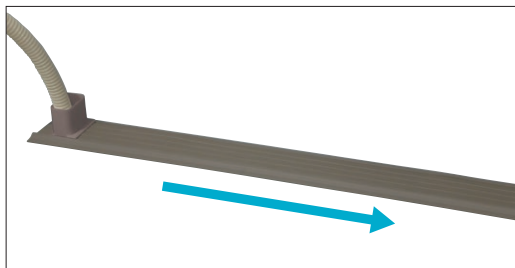
	破断強度(N/10mm)
タキストロン	99.6
ネオセーフ抗菌	137.0

専用溶接棒は、それぞれの長尺シートと同質の組成のため、溶接部の一体化がしやすく溶接強度に優れています。

排水性 (ドレーンレール)

試験方法

- 自社法**
勾配1/100に傾いた平滑な下地上に試験体を設置し、排水用ドレーンホースから注水後のオーバーフローの有無を確認します。



試験結果

- ※数値は試験値であり、保証値ではありません。
※試験結果は予告なく変更される場合があります。

○:排水可能 ×:オーバーフロー発生

注水量	ドレーンレールL・H	ドレーンレールプラス
100 ml/min	○	○
200 ml/min	○	○
300 ml/min	○	○
400 ml/min	○	○
500 ml/min	×	○
600 ml/min	×	○
700 ml/min	×	○
800 ml/min	×	×

※200 ml/min以上の排水量に対応する場合は、DSホルダーの後部をシール等で塞いでください。
※排水ホースの設置位置、方向により排水性能に差が生じる場合があります。